

## 就学前施設再編説明会 （こやのさと幼稚園）

---

場 所：こやのさと幼稚園

日 時：平成30年5月28日（月）18時30分～20時30分

参加者：14名（就学前児童保護者6名、その他8名）

質疑等：

**質問：**未就学児のいる保護者は出席しにくい時間帯の開催。保護者が来ない理由をどう考えているか。閉園が決定したと思って来ていないのではないか。

**回答：**今回の会については、公立幼稚園を会場としていますが、対象は地域の未就園児・幼稚園・保育所の保護者、地域の方としていますので、夜の開催としています。保育所で説明会を実施する場合には、この時間帯で実施しており、そうしたことを踏まえて設定しました。

**質問：**新しい認定こども園の基準（先生が全員の顔を覚えられる子どもの人数・子どもが歩いて通える距離・広さ）を設けてほしい。公立の良さはある程度の規模でしっかり教育してもらえるところ。200人は多いのではないか。

**回答：**認定こども園の基準については、こども園の規模に応じた敷地、園児数、職員数等に応じて設けます。子どもと密に関わる担任や関わりのある学年の先生は、子どもや保護者の顔を必ず覚え信頼関係を築いていきます。また園長や副園長も子どもと保護者の顔を覚え、安全面にも配慮できるようにします。神津こども園においても、適時、ミーティングや保育カンファレンス等を行い、意思疎通や共通理解を図っています。

**質問：**夏休み明けには幼稚園に願書を提出しなければならず、時間的余裕はない。早く決めてほしい。

**回答：**今回の説明会だけでなく、窓口やお電話などでも同様の意見を多数いただいております。適時適切に判断してまいります。

**質問：**対象の保護者も再編を知らないと聞く。市もかなり努力をしていると思うが、多くの市民に知ってもらうにはどうしたらよいか考えたい。

**回答：**昨年8月に「幼児教育推進計画」（案）を公表して以来、公立幼稚園や保育所、公共施設、自治会等において説明会を約100回開催してきました

た。また12月には0歳児から5歳児の子どもがおられる全家庭にダイレクトメールの送付や広報いたみにおける特集号の発行、個別相談会等を実施してきました。

**質問：**幼稚園教諭の変則勤務の検討をしたことがあるか。公立幼稚園で児童くらぶ（17時まで）の検討をしてほしい。預かり保育の先生は幼稚園教諭か。

**回答：**幼稚園教諭の変則勤務は検討をしたことはありません。預かり保育については、担任とは別に預かり保育担当教員を配置しています。

**質問：**自転車で10分かかるが、雨の日は小さい子がいて大変。検討してもらえないか。新しい園に行けるのはよいが、通園距離が1～2kmに延びるのはいかがか。通園距離の目途は。通園距離が延びると園児数がかなり減ってしまう。バスの確保を検討してほしい。

**回答：**私立幼稚園でも通園バスの利用者が減少している現状を踏まえ、どの程度の方々が利用いただけるのか不明であるなか、バスの定員一杯まで利用されたとしても、1人月額2万円程度の経費が必要と試算しています。この水準で利用していただけるのか疑問であるため、実施できないと判断しました。また、通園バスは私立幼稚園の特徴的なサービスであり、市が同様のサービスを実施することは、公私の棲み分けとして適当ではありません。

**質問：**平成32年度入園で、公立か私立か考えている。公立の良さを教えてほしい。

**回答：**公私立の違いは、公立幼稚園はグループによる徒歩通園を行い、週3回の弁当持参です。私立幼稚園はバス通園や徒歩通園、給食の実施をしている園もあります。また、公立幼稚園は、一人一人の子どもがのびのびと遊ぶことを大切にしています。さらに、幼児教育の質を保つため、長年にわたって研究・研修を重ねています。

**質問：**公立幼稚園の良さは若い先生からベテランの先生がいることや1校区1園制で地域とのつながりがあることだ。

**回答：**幼稚園教諭の年齢については保護者からの評価も分かれるものと思われます。1校区1園制がなくなることは残念ですが、現在、公立幼稚園に通う子どもの割合は約20%であり、残りの約80%は、公立幼稚園以外の私立幼稚園や公私立保育所などに通っておられます。すべての子ども

もが地域とのつながりをもてるような仕組みづくりが必要と考えます。

**質問：**私立幼稚園の保育料も無償化の対象ならば、保護者は私立を選択するのではないか。

**回答：**公私それぞれの特色を見て、各家庭がどのような教育を望まれるかだと考えます。

**質問：**私立幼稚園の先生はよく変わるが、公立はそのようなことはないか。

**回答：**公立幼稚園においては、市内で人事異動があるので、ある程度の年数ごとに職員が変わります。

**質問：**周辺に新築も建っており、子どもは増えるだろう。他の校区と比較し、子どもの数は減っているのか。

**回答：**Fブロックにおける平成30年4月時点での基礎児童数は、笹原810人、こやのさと516人、せつよう400人となっており、笹原小学校区が最も多い状況です。

**質問：**市と保護者が向き合って話し合うこのような話し合いは大事。定期的開催すれば輪も広がる。継続される限り閉園にすべきでない。

**回答：**できる限り、こういった機会を設けていきたいと考えています。

**質問：**こども園の預かり保育も16時30分までで延長されることはないのか。保育所保育料が無料なのに幼稚園の預かり保育の費用はかかる。保育の内容が違うのか。国が無償化の対象にすると市も対象にするだろうが、先駆けて実施することはないか。

**回答：**こども園の預かり保育については、1号認定のお子さんについては16時30分までです。いざというときに預かってもらえるという子育て支援として実施していますので、時間の延長は今のところ予定はありません。保育所については、18時頃まで保護者が子どもの保育ができない状況にあります。また、公立幼稚園については、午後の時間において保護者が子どもの保育ができる状況が多い中、諸事情により預かり保育のサービスを利用することから有償としています。

**質問：**こども園とはどういうところか。神津こども園のメリット・デメリットをみんなに知ってもらう必要があると思う。

**回答：**こども園とは、保護者の就労の有無にかかわらず利用でき、幼稚園と保

育所の両方の機能を併せ持つ施設です。現在神津こども園においては、1号認定のお子さんと2号認定のお子さんは同じクラスで保育を受けています。神津こども園については、毎年地域の方も交えて学校評価を実施し、ホームページにて公表をしています。

**質問：**明石市は子育てによい町とアピールし、子どもの数が増えて待機児童が県下ワースト1位になっている。伊丹市でも無償化すればこのような事態になるがどう対応するのか。2歳児までの小規模施設を増やしても3歳で通えなくなる。待機児童対策は民間でしかないのか。公立ですれば市民は喜ぶと思う。

**回答：**これまでから保育所待機児童の解消に向けて、民間認可保育所の誘致に努めてきたところであり、平成24年度以降、累計833名の定員増を図り、平成29年4月時点において待機児童ゼロを達成しました。民間だからこそ、この水準の定員確保ができたものと認識しています。

**質問：**国が来年10月から3歳児の保育料を無償化するという記事が出ていた。来年から公立で3歳児保育を実施することを検討してほしい。

**回答：**公立幼稚園での3歳児保育は、再編で生み出される人材を活用することで実施するものであるため、平成32年度からの実施となります。

**質問：**平成32年度のブロック内の3歳児は50人だが、平成34年には25人と定員が減少することをどう考えているか。定員が25人なら選択することをやめてしまう保護者もいると思う。市内全域でも3歳児定員は225人となり、公立幼稚園に行きたくても行けない子どもも出てくる。公立幼稚園を残そうという思いが市にあるのか。

**回答：**平成26年度の学校教育審議会答申においては、今後の公立幼稚園においては各ブロックの拠点となり、研究や研修、特別支援教育や小学校との接続など、先導的な役割を担うという方向性をいただいています。今後、統廃合により公立幼稚園の数については減少しますが、担う役割は大きいと考えています。

**質問：**公立幼稚園の再編の話は以前からあったが、保育所と一緒にしてこども園になる話は突然に出てきたと思う。どのような要件の保育所が幼稚園と一緒にしてこども園になるのか。

**回答：**保育所には夏休み等の長期休業がないことや適切な仮設スペースの確保が困難なことから、大規模改修が実施できない公立保育所があり、か

ねてから課題となっていました。老朽化対策の必要性が高い保育所が、認定こども園化の対象となっています。

**質問：都合で参加できていない保護者のために別の場を設けてほしい。**

**回答：検討します。**